

大阪・関西万博まで2カ月

文科省主催 プレイイベント、大学・Nプロの研究成果体験

大阪・関西万博がいよいよ4月13日、大阪・夢洲(ゆめしま)を会場に開幕する。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、日本のほか160を超える国・地域・国際機関がパビリオンを設け、最新技術や独自の文化を紹介する。期間は10月13日まで。これに先立ち、文科科学省は2月13日〜16日、万博会場で開催される「わたしとみらい、



スケッチブックを手に笑顔の高校生と阿部大臣(前列中央)、中村助教(前列左から4人目)ら

つながるサイエンス展」(8月14日〜19日)のプレイイベントを東京都内で開催した。北海道大学や東北大学、東京藝術大学、信州大学などによる体験型コンテンツをはじめとした展示のほか、学生団体、高校生によるステージイベント等が行われ、参加者は一足先に「万博」を体験。文科省によると、4日間で1000人以上の来場者があったという。

阿部俊子文科科学大臣も2月14日にイベント会場を視察。18日の閣議後会見で「創意工夫を凝らした展示物の体験、また研究者や高校生とのコミュニケーションを通じて、さまざまな分野の研究の持つ素晴らしい可能性に触れることができた。文科省としては、万博本番に向けて、研究成果がより明確でわかりやすく伝わるよう、さらなる磨き上げを進めるとともに、引き続き関係省庁とも協力をしながら、万博本番に向けた準備や機運の醸成を進めてまいりたい」と語った。

京大・中村助教主導「Nプロ」

高校生ら、万博で科学発信へ

プレイイベントでは、コンテンツ連携する中村秀仁・京都大学複合原子力科学研究所助教が一般の高校(大阪高等学校)とともに推進する「Nプロジェクト」の展示もあった。

Nプロは、先端科学を接点に科学者と文系理系2000名の現役高校生が産学官連携で科学に理解ある社会づくりに挑むプロジェクト。万博期間中には、多言語でまとめたスケッチブックを片手に高校生らが、各国からの参加者に熱く科学を語るといふ。中村助教は「万博は社会との接点を見出させる最高の舞台。ごく普通の高校生が懸命に科学を語る姿を見て来てほしい。皆さんの声援は今我が国に直結している」と話している。